

2019年度 学校評価

五條市立野原中学校

教育目標		知・徳・体の調和のとれた人格の形成をめざし、社会の発展に寄与する生徒を育成する。			総合評価	
運営方針		生徒一人一人が確かな学力、豊かな心、活力ある心身を備え、他者と協働して将来を生きる力を育てる。				
平成30年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の教科化に向け、計画的に研究授業や研究協議を行った。 ・今年度は、「特色ある学校づくり」の指定を受け、野原中学校としての最後の1年となるため、小中連携のもと、ふるさと学習に力を入れたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域・小学校との連携 ・問題解決学習の徹底 ・生徒の自主的活動の推進 ・心身ともに健康な生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間の系統的な学習と開かれた学校に努める。 ・自ら学び自ら考え行動できる生徒の育成を目指す。 ・生徒会を中心に自主的なボランティア活動を行うとともに、小学校と連携したふるさと学習を推進する。 ・多様性を認め合える集団づくりと体力向上に努める。 	A		
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学校運営	保護者、地域、小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域の人々へ積極的に情報を発信する。 ・小学校との連携を強化し、授業研究にはできる限りの教師が参加できるような日程調整と、意見交流をし、野原スタンダードとしての授業方法を確立する。 また、野原中学校最後の年に、ふるさと学習を重点的に推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に対する小・中の授業研究では、両校の教員全員が参加し、教科の垣根を越えた交流ができた。授業の進め方や、板書の方法、発問の工夫等、9年間を見据えた指導の交流ができた。 ・ふるさと学習では、小学校の写真やキーワードをもとに、中学生が歌詞を考えた「野原 思い出の街」の歌が完成し、文化祭で披露し、閉校するにあたり、ふるさとに誇りと愛着をもてた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年までは一小・一中の枠の中であったが、来年度からは新制五條中学校としてのスタートとなるため、より多くの保・幼・小との連携を密にしたカリキュラムを考え、積極的・定期的に交流を行い、十五年間の成長を視野に入れ、推進したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から見るに、教師の結果と保護者の結果に、隔たりが見られるところがある。それだけ、保護者の期待度が高いと認識し、真摯に受け止め努力してもらいたい。 ・統合が迫っており、大変な時期であろうとは思いますが、いろいろな場面で三校交流しており、スムーズなスタートをきれると思えます。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に生徒指導の方針を明確に示し、生徒に関する情報交換を定期的に行うことにより、その方針の達成状況を確認し合う。 ・生徒指導の3機能(自己存在感・共感的人間関係の育成・自己決定の場)の充実を図り、適切な指導をしていく。 ・家庭と密接な連携を図り、積極的に家庭訪問を行う。 ・教師一人ひとりが、生徒とかわかる機会を増やすことを目標に、校区内の巡視や校門立哨を積極的にを行い、小さな変化に気づき、的確に指導できるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月生徒に関する情報交換を行い、職員朝礼でも適宜行った。 ・学校行事ではその特性から生徒が主体的に取り組める機会を増やし生徒間での有用性を感じるように指導した。 ・学級通信をはじめとして生徒の取り巻く様子を伝え、生徒の変化を家庭と連携共有することから解決に心がけた。 ・全教師が週に1度以上校門立哨し生徒との交流に心がけた。定期テストなど平日授業日には校区内巡視を行った。学年所属にこだわらず全校生を全教職員が見ていこうとする体勢をとった。 ・長次傾向生徒に対する受容、傾聴に心がけ生徒の自己実現に向けて更なる努力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の変化に全職員で細心の注意を払い、カウンセリングマインドで生徒の自己実現に向けて更なる支援を行う。 ・日頃から全校生を全職員が対応できるような取り組み及び情報交換を心がける。 ・生徒の自己実現を支援するように生徒指導の3機能の充実を念頭に取組をすすめる。 	
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見据えて、組織的、継続的に進路指導を実施する。 ・適宜進路に関わる情報を発信し、生徒や保護者の進路への意識を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間における進路指導・キャリア教育を通して、進路選択と適性について考え、学力向上につなげる取組ができた。また、社会への参画に向けた将来に対する目的意識を高める機会にもなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域社会・関係諸機関等との連携を継続するとともに、地域の人材活用の推進により一層努める。 	
	危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルを作成して、定期的な不審者対応訓練や避難訓練などを行う。 ・家庭・地域・関係機関との連携を密にし、実情に応じた危機管理体制を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画、危機管理マニュアルを見直すとともに、計画的に関係機関とも連携し、避難訓練等を実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近い将来南海トラフ地震が起こる可能性が高まるなか、より実践的な訓練をするための工夫が必要である。 	
教育課程	自ら学び自ら考え、行動する力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的・問題解決的な学習の指導法を研究し、指導方法を工夫する。 ・市教研や県立教育研究所の研修に積極的に参加し、魅力的な授業作りの工夫をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体験的・問題解決学習を各教科に進めたが、個々の生徒によりばらつきがあり、生徒全員が主体的に取り組めるところまで、至っていない。教員間で授業参観に取り組み、互いの指導力向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修等に参加し、指導実践等を学び、「対話的・主体的な深い学び」が得られる素地を養っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の地道な努力が、学力にも表れてきていると思う。統合後も野原の取り組みの良いところを継続していきよう、提案をお願いしたい。 ・道徳は、特別な教科道徳として、教科化されているため、22項目をしっかりと網羅できるよう、年間計画をたて、計画通り進めていけるよう、お願いしたい。
	基礎基本の定着と問題解決学習の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての子どもたちに対する「基礎・基本の定着」を目標とする。そのため、学習指導要領を理解し、わかりやすい授業の創造に努める。 ・問題を解決していく方法を学ぶことにより、達成感や学ぶ楽しさを知らせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査から、教科によっては入学時より継続的に向上している結果が見て取れる。努力のかかる小テストの継続が確実に基礎学力の向上に寄与していると考えられる。実際に向上しているかどうかを一年次から全国的な指標で追い評価してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経年比較は同一集団の追跡で行うことを基本とし、標準テスト・実力テストを全国的な偏差や平均点との比較によって判断する必要がある。 	
	道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動等を生かして、道徳性を養い、実践力を高める。 ・研究授業を行い、研究協議をする中で、教材提示の工夫や発問の仕方など、指導方法の改善に努める。 ・定期的に「人権・道徳通信」を発行し、人権意識の高揚に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本格的な教科化が始まり、授業内容や評価についての研修を行った。 奈良県道徳教育研究会の中学校道徳について詳しい先生を招聘して、道徳教育についてお話しいただき、「道徳授業の展開」について具体的な演習を行った。教科化の内容について、依然として職員間でばらつきがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教科化」とは、どういうことであるのかを、繰り返し全職員で研修していく。また、「考え、議論する」道徳授業にしていくための授業の深め方や発問の仕方についても、研究授業などをして継続して研修していく。 	
	キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自己の能力や適性を理解し、自己の将来に対する目的意識や望ましい職業観・勤労観を育てる。 ・三校合同での職場体験やゲストティーチャーの話などの機会を設ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 社会人講師による2、3年生対象の講演や3日間の職場体験活動とそれにむけての諸活動・進路学習等を通じ、適切な職業観勤労観の育成を図った。 来年度よりキャリアパスポートの導入で、各学年の取り組みの一般化・均質化が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートの活用について、先行事例を参考とした研修などが必要と考えられる。 	
課題教育	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・「多様性を認め合える集団づくり」を主題に人権教育を進める。 ・基礎的な内容を復習して学ぶ機会として、「基礎学習教室」を実施して、学力の充実を図る。 ・人権集会を年数回実施する。・人権教育講演会を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎学習教室」は年間13回実施して、基礎学力の充実を図ることができた。 「多様性を認め合える集団づくり」の実現に向けて、年間3回の人権集会を行い、視野が広がるような教材を準備して授業を展開した。 生徒間で生じてくる問題と向き合い、職員間で連絡を取り合いながら集団づくりをしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して「基礎学習教室」や人権集会を実施する。 「なかまとともに」等を使って、各学級での人権学習の充実をはかる。 職員間の研修や情報共有を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三校が一緒になって、特別支援教育については、特に大変だとは思いますが、できるだけ積極的に対応してもらいたい。 ・卓球部以外は、すべて合同チームとして取り組みだったので、大変な1年であったと思う。それだけに、統合後もスムーズに移行できるはずなので、頑張ってもらいたい。 ・閉校に関しては、自治体としても協力させていただいた。寂しくはなるが、記念になるような閉校記念式典になるよう、よろしく願いたい。
	保健・安全・食育教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が健康で安全に登下校し、学校生活を送ることができるよう安全管理と安全指導を徹底する。 ・自転車交通安全教室、喫煙防止教室、ブラッシング指導、命の学習を1年生で実施する。・救命教急講習、妊婦育児体験を2年生で実施する。・薬物乱用防止教室を3年生で実施する。 ・全学年で、栄養士を招いて、食育指導を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が健康で安全に学校生活を送ることができるよう、関係機関との連携の一環として専門の外部講師を招聘し、自転車交通安全教室、喫煙防止教室、ブラッシング指導、命の学習、救命教急講習、薬物乱用防止教室、栄養指導を行った。 やりっぱなしで終わることがないよう、振り返りシートに書かれている感想や質問等を拾い上げ、コメントを付けて返却したり回答を掲示したりと、学んだ事を生徒が実践に生かせるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校により取組に違いがあり、できている実践に差があるが、今までの取組と成果が統合校でも生かせるよう、引き継いでいきたい。 	
	読書活動	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書の木」「読書カード」「絵本読み聞かせ」等の活動を通して、積極的に読書推進に努める。 ・家庭学習にも、読書を位置づけて定着を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は読書活動活性化モデル校であったので、今年度もできるだけ昨年度と同様に読書推進に努めた。図書委員の活動も充実していた。生徒個々の読書活動については、日々の忙しさもあって、ばらつきがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中の連携した取組と入学当初からの継続した取組が必要である。そのためには、全教職員の協力が必要である。 	
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの特性を理解・共有し、担任のみならず、学校全体として望ましい対応ができるように職員全員が研修を深める。 ・関係機関との連携を図り、保護者との関係作りや、気になることに対する専門的なアドバイスをもらう。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの特性を理解し、職員会議等を通して対応や方策について共通理解をした。学力補充を目的に放課後に担任と補習を行った。また保護者と密に連携を取るため、連絡ノートで生徒の日々の様子について報告を行った。関係機関と連携を図り、今後の支援の展望や進路指導について、専門的なアドバイスをもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの特性をよく理解するための、研修の実施が必要である。特に自立活動においては、職員の見解浸透のために来年度研修が必要である。 	
	部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や学年を離れて生徒が活動することにより、自主性や協調性、責任感、連帯感などを育成する。 ・合同チームや練習試合により他校との交流を深める。 ・休養日を適切に設定する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの部活動が休養日を適切に設定しながら、子ども達の自主性や協調性を高める取り組みができていた。特に今年度は合同チームも増えて、他中の生徒と交流を深めながら、責任感や連帯感を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 合同チームが増えている現状であるため、他中との連携を密に行い、子ども達が自ら考え活動できる場作りが必要である。 	
	生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に活動する意欲を高め、積極的な活動を促す。 ・よりよい学校づくりに積極的に取り組む姿勢を育成する。 ・地域の方と共にボランティア活動を行えるよう呼びかける。 ・小学校と連携したふるさと学習の中心的役割を担う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら立候補して生徒会役員になったという自覚と責任を、さまざまな行事や取り組みを通して育むことができた。 ・募金活動やペットボトルキャップ回収などを継続させ、生徒会で企画した球技大会も成功させることができた。 ・クリーンキャンペーンで地域の清掃活動を行い、地域の方との交流をもつことができた。 ・小学校の児童が撮った地域の写真に着想を得て、「野原の歌」の歌詞を考えるなど、ふるさと学習の成果を地域で親しまれる楽曲に仕上げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなアイデアや企画が提案される中で、全てを運営することが現実的に難しい。より良い学校づくりのための取り組みを精選し、各委員会とも連携しながら、生徒主体の生徒会活動がより効果的に運営されるように、来年度からの生徒会活動にも引き継いでいきたい。 	
今年度の成果と次年度への課題	重点目標達成のため、昨年の反省をもとに具体的な方策を練って取り組んできた。それぞれの項目について一定の成果は出せているように思えるが、具体的な数値目標を入れた取り組みにするべきである。			野原中学校は、今年度で閉校になるが、反省点を五條中学校の学校評価にも盛り込んだ中で取り組んでいきたい。学校関係者評価にもあったように、アンケート結果については、教員と保護者・生徒との結果の乖離を真摯に受け止め、取り組んでいることが、保護者や地域へ伝わるような発信をもっと工夫していってほしい。		